

# 新しい教育環境づくりに取り組んでいます！

## コミュニティ・スクール (学校運営協議会と地域学校協働本部)

### 地域総がかりで子どもたちを育てる瀬戸市に

#### なぜ取り組むのか

急速な社会の変化に対応するため・・・

- 2030年頃には・・・  
日本の労働人口の約半数49%がAI・ロボット化する（オックスフォード大学と野村総合研究所）
- 2040年頃には・・・  
急速な人口減少社会が訪れる（国立社会保障人口問題研究所）
- 2050年頃には・・・  
愛知県の小・中学校の半数がなくなる試算（東洋大学教授）

子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、教育改革、地方創生等の動向からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。（文部科学省）

#### どんな取り組みなのか

これからの未来を生きる子どもたちのために、学校と地域が取り組むべきことは、「地域総がかりで子どもたちを育てる教育環境」をつくることです。これまで学校は、地域の方々からの支援をいただき、子どもたちを育てる活動を進めてきました。この取り組みは、従来の「一方向だった学校支援」から「双方向の連携・協働」へと移行し、「地域とともにある学校づくり」への転換を図るものです。

瀬戸市は、全市的に中学校ブロックごとの小中一貫教育を進めています。小中一貫教育に伴い、地域におけるゆるやかなネットワークを整え、学校と地域が目標やビジョンを共有し、輝く子どもたちの未来の創造に向けて新しい教育環境づくりに取り組んでいきます。



## どんな仕組みなのか

学校・家庭・地域が相互理解や信頼関係を深め「地域とともにある学校づくり」を推進する地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第47条の6）※令和2年4月～：第47条の5に基づいた仕組みです。

### 3つのキーワード 「熟議」「協働」「マネジメント」

#### 「熟議」

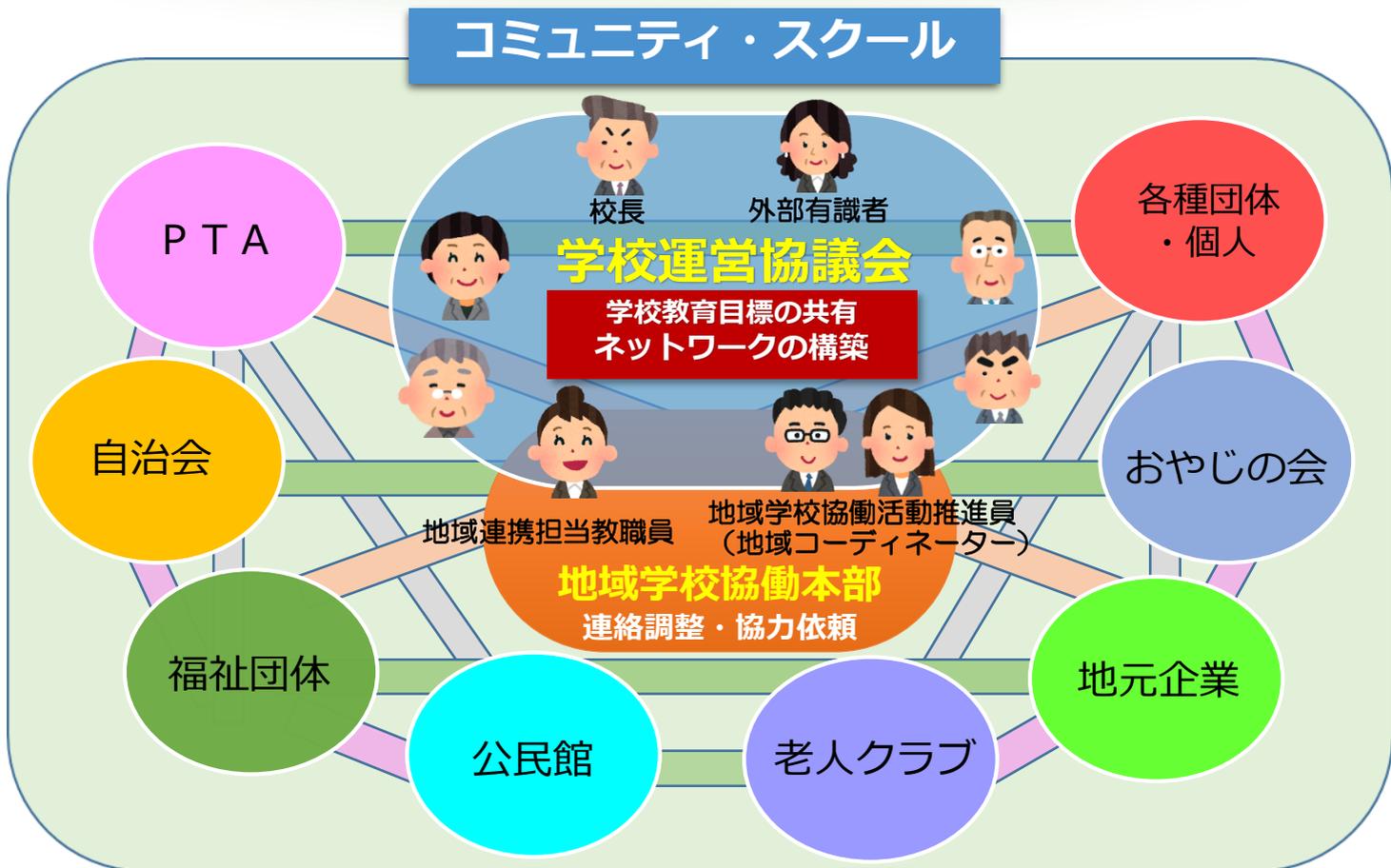
保護者、教職員、地域住民等の当事者が集まって、課題や目標について熟慮し議論することにより、お互いの立場や果たすべき役割への理解を深め、それぞれが納得して自分の役割を果たすようにします。

#### 「協働」

保護者、教職員、地域住民等の当事者が、同じ目的・目標に向かって、対等の立場で協力し合って共に活動するために、「計画・実行・評価・改善」のPDCAサイクルを回し、より効果的な地域学校協働活動に向けた取り組みにつなげます。

#### 「マネジメント」

最終意思決定者である校長のリーダーシップにより、①学校内の組織体制と協働文化の構築、②学校の教育力を向上させるための工夫、③学校関係者が持つ専門性やネットワークを生かした地域学校協働により学校運営を促進します。



## どんな効果があるのか

- 保護者・地域住民等が学校と協働することにより、子どもたちの教育の当事者となり、地域ぐるみで効果的に子どもたちを育む体制が構築されます。
- 学校が社会的なつながりを得られる場となり、子どもたちの学びや体験が充実します。また保護者や地域住民等が学校運営に参画することは、生きがいや自己有用感につながります。
- 地域の課題解決に向けた取り組みや大規模災害の緊急対応に、学校と地域が一体となって取り組む体制づくりが進みます。